

平成28年度

# 事業報告書

学校法人 村上学園

東 大 阪 大 学  
東大阪大学短期大学部





## 目次

建学の精神と本学の使命	4
学園訓	4
本学の教育目的	4
本学の教育目標	4
<b>I. 法人の概要</b>	
1. 沿革	5
2. 法人事務局・学校の所在地	6
3. 設置する学校・学部・学科及び学生・生徒・園児数	6
4. 役員・教職員等の概要	6
<b>II. 事業の概要</b>	
【はじめに】	7
【東大阪大学】	
【1】 こども学科	9
1. 入学前教育	9
2. 初年次教育	10
3. 基礎学習の見直しと実践	10
4. 子どもの現場に学ぶ	10
5. 卒業研究発表	11
【2】 アジアこども学科	12
1. 入学前教育	12
2. 大学祭の模擬店	12
3. アジアこども学研修（フィリピン）	12
【東大阪大学短期大学部】	
【1】 実践食物学科	15
1. 入学前教育による学生の意識改革	15
2. 地域連携と産学連携による実践力の教科	15
3. 併設高等学校との高大連携強化	15
4. 実践栄養のカリキュラムの実施	17
5. 初年次教育、リメディアル教育及びキャリア教育の充実	18
6. 実践栄養の情報発信	18
7. 学科の再編成	19
【2】 幼児教育学科	19
1. ダブルアシスト制の充実	19
2. 入学前教育の実施	19
3. 新入生宿泊オリエンテーションの実施	20
4. 資格取得について	20
5. 学生の学習状況について	21
6. 施設的課題について	21
【大学・短期大学部共通】	
【1】 教学部（教学支援課教務担当）	22



1. 教室の運用見直し	22
2. 開講科目について	22
3. 履修方法の検討	22
4. 外部機関での実習	22
5. 年間スケジュールの見直し	23
6. 公開講座の実施	23
7. 大学コンソーシアム大阪の単位互換	24
8. 免許更新講習の開催	24
9. 高大連携について	25
10. 短期大学部改組への対応	25
<b>[2] 教学部（教学支援課学生担当）</b>	<b>26</b>
1. 新入生宿泊研修の実施	26
2. 社会のルールや人との約束を守れる人物に	26
3. 地域社会とのつながりで社会人基礎力を	26
4. ボランティア等の社会貢献活動を通して社会参加を	26
5. 学生が主催する行事等の実施	26
6. 学生のキャンパスライフの充実を図る	27
7. クラブ活動について	27
<b>[3] 入試広報部</b>	<b>30</b>
1. 入試制度	30
2. 広報活動	30
3. オープンキャンパス	30
4. 高校教員対象入試説明会の開催	31
5. 入試結果	31
<b>[4] 図書館</b>	<b>32</b>
1. 教育・研究に役立つ資料の収集と提供	32
2. 図書館各種企画事業	32
3. 急を要する配慮事項	32
<b>[5] キャリアサポートセンター</b>	<b>33</b>
1. 就職支援対策講座	33
2. 就職活動支援	33
3. キャリア教育支援	33
4. 就職先の開拓	34
5. 進路指導・相談	34
<b>[6] 基盤教育センター</b>	<b>34</b>
1. 初年次教育について	34
2. キャリア教育について	34
3. リメディアル教育について	35
4. キャリア教育の研究	35
<b>[7] 異文化研究交流センター</b>	<b>35</b>
1. 海外研修の支援	35
2. 留学生のためのチューター制度の実施	35



3. 留学生の学生生活支援活動	35
4. 留学生募集広報活動	36
5. 海外 NGO・NPO 就業支援	36
6. 国際交流クラブの立ち上げ	36
7. 外国人お料理自慢大会	36
8. 各種語学関連の弁論大会の開催	37
<b>[8] 情報教育センター</b>	<b>37</b>
1. 平成28年度新入生のPC購入実施と次年度計画の成立	37
2. キャンパスネットワークの無線アクセス拡充	37
3. 学生支援の一環としてOfficeの配布実施	37
4. ネットワーク機器の更新	38
<b>[9] 健康センター</b>	<b>38</b>
1. 保健室	39
2. 学生相談室	41
<b>[10] こども研究センター</b>	<b>42</b>
1. 「こども広場」(月曜日～金曜日)	42
2. 「親子で遊ぼう」土曜日・日曜日(月1回)	43
3. 「こども応援ひろば」	44
4. 利用者のまとめ	44
<b>[11] FD・SD・IR研究会</b>	<b>45</b>
1. 授業評価アンケートの実施	45
2. 教員相互の授業参観の実施	45
3. FD・SD 研修会	46
<b>[12] 総務部</b>	<b>47</b>
1. 補助金の確保	47
2. 予算の適正管理	47
3. 水道光熱費の削減	47
4. 公的研究費の管理	48
<b>[13] 桃風寮(学生寮)</b>	<b>48</b>
1. 新寮生歓迎会	48
2. 防災訓練	48
3. 退寮生送別会	49
4. 年間行事	49



## 建学の精神と本学の使命

開学の祖、村上平一郎先生が学園の設立を志されたのは、「健康にして聡明、情操豊かにして強い生活力を持った人材を育成する」ためであり、この目標を生かすべく、「萬物感謝・質実勤労・自他敬愛」の学園訓を掲げられた。この建学の精神は、時代の変化を超えて不偏性を持つものであり、本学が実践に努めている「学問を通して人間を作る教育」の支柱となっている。

本学の使命は、建学の精神を継承し、大学学則第1条（目的）、第3条の2（各学科の人材養成目的）、短期大学部学則第1条（目的）、第5条の2（各学科の人材養成目的）に従い、教育科目並びに専門科目に関する教育と研究を通じて、社会の良き形成者を育成し、世界文化の発展と人類福祉の向上に貢献することにあるのはいうまでもない。

## 学園訓

### 萬物感謝

「私は、自分以外のすべてによって生かされている。ありがたいことだと感じること。」

私たちが生きていくには、大きく考えれば宇宙全体の力で生きていけると言えます。私たちは、空気や太陽、自然界の色々な恵みによって生かされています。言い換えると、宇宙全体のおかげで、自分が今ここに生きているのです。私たちは、萬物のおかげによって、生きているのです。したがって、物を大切にし、すべての命を大切にし、感謝する心を持つことが大切です。

### 質実勤労

「かざり気がなく、真面目に、自分の仕事に精を出し、努力すること。」

科学技術の進歩、高度情報化社会の時代に、将来、社会に役立つ立派な人になるためには、陰日なたなく努力し、自分に与えられたことに対して責任を果たすことです。真面目に、日々の努力を積み重ねる必要があります。そのためには、精神力と身体を鍛え、持っている力を十分発揮できるように努力することが必要です。

### 自他敬愛

「かけがえのない自分を大切にすることはもちろんのこと、他人も大切にすること。」

今、地球上には数多くの人間が生存していますが、自分というものは、世界でたった一人のかけがえのない存在です。それと同様、他人もまたかけがえのない存在です。自分というものは、他人がいなくては生きていけないし、他人によって生かされていることを自覚し、相手の立場をお互いに理解しあうことが大切です。  
(村上靖平理事長 入学式告辞より)

## 本学の教育目的

本学は、教育基本法並びに学校教育法の示すところに従い、村上学園建学の精神と伝統に基づき、学問を通して人間を作る教育をめざすとともに、大学においては、子どもに関する総合的な学芸を教授研究し、豊かな実践力を身につけた有為な人材を育成することを目的とし、短期大学部においては一般教養とともに健康栄養並びに幼児教育に関する実際的な専門の学芸を授け、家庭・社会の良き形成者を育成することを目的とする。

## 本学の教育目標

大学…広い教養と豊かな情操を備え、子どもに関する専門的知識、技能を身につけ、子どもの視点に立って子どもの育ちを総合的に援助できる人材を育てる。

短期大学部…「学問を通して人間を作る教育」の実践を図り、知識や技術に偏重することなく、広く社会に貢献できる人間性豊かな人材を育成する。



## I. 法人の概要

### 1. 沿革

- 昭和15年(1940) 財団法人村上学園の設立認可  
布施高等女学校の設置認可（創設者村上平一郎校長就任）
- 昭和16年(1941) 布施高等女学校開校
- 昭和22年(1947) 布施高等女学校附属中学校開校
- 昭和23年(1948) 布施学院高等学校に校名変更、私立双葉高等女学校を併合
- 昭和24年(1949) 布施女子高等学校・布施女子中学校に校名変更
- 昭和26年(1951) 学校法人村上学園に組織変更認可
- 昭和28年(1953) 布施女子高等学校附属幼稚園の設置認可（村上平一郎園長就任）開園
- 昭和38年(1963) 柏原女子高等学校の設置認可（村上平一郎校長就任）開校
- 昭和40年(1965) 布施女子短期大学家政科の設置認可（村上平一郎学長就任）開学  
布施女子高等学校附属幼稚園を布施女子短期大学附属幼稚園に園名変更
- 昭和41年(1966) 布施女子短期大学保育科増設
- 昭和42年(1967) 布施女子高等学校・同中学校を東大阪高等学校・同中学校に校名変更  
布施女子短期大学を東大阪短期大学に校名変更  
布施女子短期大学附属幼稚園を東大阪短期大学附属幼稚園に園名変更
- 昭和43年(1968) 東大阪短期大学家政科を専攻分離し、家政学専攻・食物栄養学専攻とする  
同家政科を家政学科に改称
- 昭和44年(1969) 同保育科を幼児教育学科に改称
- 昭和45年(1970) 同家政学科家政学専攻を服飾デザイン専攻に改称  
同幼児教育学科の学生募集停止、児童教育学科を増設  
柏原高等学校女子部を廃止
- 昭和47年(1972) 東大阪中学校生徒募集停止
- 昭和48年(1973) 東大阪短期大学児童教育学科を初等教育学専攻・幼児教育学専攻に分離
- 昭和54年(1979) 同食物栄養学専攻を栄養士コース・食物学コースに分離
- 平成2年(1990) 同初等教育学専攻を初等教育コース・国際文化コースに分離
- 平成8年(1996) 同服飾デザイン専攻を服飾デザインコース・服飾文化コースに分離
- 平成12年(2000) 同家政学科に生活福祉専攻を設置、初等教育学専攻を廃止
- 平成13年(2001) 同家政学科のコースを廃止
- 平成14年(2002) 同服飾デザイン専攻を生活デザイン専攻に改称  
同児童教育学科を廃止し、幼児教育学科を設置
- 平成15年(2003) 東大阪大学こども学部開学  
東大阪大学開学に伴い東大阪短期大学を東大阪大学短期大学部に校名変更
- 平成18年(2006) 東大阪大学短期大学部家政学科生活デザイン専攻の学生募集停止  
同家政学科食物栄養学専攻を健康福祉学科健康栄養専攻に改称  
同家政学科生活福祉専攻を健康福祉学科生活福祉専攻に改称
- 平成19年(2007) 同家政学科生活デザイン専攻廃止
- 平成22年(2010) 同健康福祉学科生活福祉専攻の学生募集停止  
同健康福祉学科健康栄養専攻を健康栄養学科に改称
- 平成23年(2011) 東大阪大学短期大学部健康福祉学科生活福祉専攻廃止  
東大阪大学こども学部アジアこども学科設置
- 平成25年(2013) 東大阪大学開学10周年記念事業開催
- 平成27年(2015) 東大阪大学短期大学部開学50周年記念事業開催



平成28年(2016) 東大阪大学短期大学部健康栄養学科を実践食物学科に、幼児教育学科を実践保育学科に学科名称変更

平成29年(2017) 東大阪大学短期大学部実践食物学科に栄養士コース及び製菓衛生師コースを設置

## 2. 法人事務局・学校所在地

法人事務局	〒577-8567	大阪府東大阪市西堤学園町3-1-1
大学・短期大学部	〒577-8567	大阪府東大阪市西堤学園町3-1-1
東大阪大学敬愛高等学校	〒577-8567	大阪府東大阪市西堤学園町3-1-1
東大阪大学柏原高等学校	〒582-0001	大阪府柏原市本郷5丁目993
東大阪大学附属幼稚園	〒577-0044	大阪府東大阪市西堤学園町3-1-1

## 3. 設置する学校・学部・学科及び学生生徒園児数（平成28年5月1日現在）

学校名	学部・学科名	学生・生徒・園児数
東大阪大学	こども学部こども学科	229
	こども学部アジアこども学科	27
東大阪大学短期大学部	健康栄養学科	51
	幼児教育学科	124
東大阪大学敬愛高等学校	普通科	853
東大阪大学柏原高等学校	普通科	771
東大阪大学附属幼稚園		256
合 計		2,311

## 4. 役員・教職員等の概要（平成28年5月1日現在）

- (1) 役員 理事 7人 幹事 2人  
 (2) 評議員 15人  
 (3) 教職員 343人

	教 員		事務職員		合 計
	専 任	非常勤	専 任	非常勤	
法人部門	0	0	9	10	19
東大阪大学	24	28	17	10	79
東大阪大学短期大学部	27	20	17	6	70
東大阪大学敬愛高等学校	47	14	6	0	67
東大阪大学柏原高等学校	55	12	10	6	83
東大阪大学附属幼稚園	17	0	6	2	25
合 計	170	74	65	34	343





## Ⅱ. 事業の概要

### 〔はじめに〕

18歳減少に伴い大学、短期大学への受験者数は年々厳しくなっている中、入学者数を確保するための抜本的な改革に取り組むため、平成27(2015)年11月に大学改革プロジェクトチームを立ちあげ、2015年度～2019年平成度を第1期とする中期計画を策定し、平成28年度はその第一段階として各プロジェクトが以下のビジョンのもと実践を開始した。

### ＜本学の目指すビジョン＞

#### 1. 「21世紀の社会を支え活躍できる人材の育成」

複雑で変化する社会を支え、発展させる人材を育成するために、基礎学力、豊かな教養、専門性と実践力を磨く教育が不可欠である。そのために、本学園のこれまでの伝統を土台に、「21世紀の社会を支え活躍できる人材の育成」を目指し、基礎学力と社会性を身に付けることができる教育課程を検討し、運営していくための基盤となる組織づくりをする。

#### 2. 「自らの資質を向上させ、社会的、職業的自立を目指す」

基礎学力、社会人としての基礎力を徹底して教え、社会で通用する人間に育てる。そのために、キャリア教育、リメディアル教育、初年次教育のつながりを意識した充実したプログラム開発と実施内容を綿密に検討しその実施計画を策定する。

#### 3. 「地域に根差した大学として、地域と繋がり貢献できる大学」

「大学と東大阪市との連携・協力に関する包括協定」を締結したのを機に、大学の特色を活かした地域発展のために貢献できる取り組みを具体化し運営できる組織づくりをする。

#### 4. 「世界の人たち、地域の人たちとつながり社会で活躍できる人材」

国際化を進めグローバル人材を育成する大学として、大学のさらなる国際化をめざし、海外の人たちと共に学ぶ経験を豊かにする。本学学生の海外経験、異文化理解、語学力、就業力向上の強化を目指したプログラムと各種国際交流、海外研修、留学プログラムを拡充する。

1. 「21世紀の社会を支え活躍できる人材の育成」では、基礎学力と社会性を身に付けるため、大学では1, 2年次必修科目「大学で学ぶⅠ」「大学で学ぶⅡ」「キャリアを考えるⅠ」「キャリアを考えるⅡ」を、3, 4年次選択科目「キャリア形成論Ⅰ」「キャリア形成論Ⅱ」「社会人の基礎Ⅰ」「社会人の基礎Ⅱ」を設定し、短期大学部では1, 2年次必修科目「大学で学ぶⅠ」「大学で学ぶⅡ」「社会人になるにはⅠ」「社会人になるにはⅡ」を設定し系統だった指導が行えるようにした。

2. 「自らの資質を向上させ、社会的、職業的自立を目指す」では、特に基礎学力向上については基盤教育研究センターを中心に、大学、短期大学部ともに全教職員が一丸となり、学生の基礎学力の実態調査を図るため国語、数学のマナトレ(ドリル)を毎日実施し、学生の実態調査を行い、学生の学力実態の把握と学力補充対策を学科ごとに検討した。また、就職に



対する学生の意識を高める方法として、就職対策講座や就職関連イベントを計画し学生の就職への意識を高めた。

3. 「地域に根差した大学として、地域と繋がり貢献できる大学」では、従来からのことも研究センター事業を充実発展させ、それに加えて異文化研究交流センターでの様々な行事、主に東大阪市の各団体との共催行事を行うなど、地域とのつながりの組織強化を図り、地域の中の大学としてのイメージを高めた。
4. 「世界の人たち、地域の人たちとつながり社会で活躍できる人材」では特に、異文化研究交流センターを中心に、学生が留学生との交流の機会を増やす行事や、海外での研修の機会をつくった。また、地域在住の外国籍の方々を大学に呼び交流の機会を増やした。

入学者受け入れに当たり、内部推薦入学者を増やすため、両高等学校と積極的に連携し、出前授業等を実施した。各日本語学校の訪問を強化し留学生の受け入れに力を入れ成果が表れ始めてきた。

介護福祉学科の平成30年度開設をめざし、学内の環境を準備し設置申請作業を行った。実践食物学科製菓衛生師コースの平成29年度開設のための募集活動については、募集活動時期のスタートが遅れたため、十分な学生確保ができなかったが、次年度では特に早くから募集活動を行いアピールし、認知度を高めたい。



## 【東大阪大学】

### [1] こども学部こども学科

#### 1. 入学前教育

平成28年4月から入学予定の学生に対して、本学の平成27年度卒業研究論文発表会・卒業研究発表演奏会の案内を送付した。また、こども学科教員による入学後の勉学に役立つ講義と実技授業を3月に3日間にわたり行った。

なお、平成29年度入学生については、平成29年3月7日（月）、8日（火）、10日（木）の3日間にわたり、次表の内容で行った。

日 程	こども学科		
<b>3月6日（月）</b>	受付 9号館1階ラウンジ 8:45から		
9:00～9:30	全体ガイダンス	源（教学部長）	832 教室
9:45～10:30	講義Ⅰ 大学で何を学ぶのか	渡邊（学科長）	932 教室
10:40～12:10	講義Ⅱ 絵本を楽しもう～魅力に触れる～	吉岡（学長代行）	932 教室
<b>3月7日（火）</b>			
9:00～10:30	講義Ⅲ 数学の面白さを知ろう～計算～	谷口	932 教室
10:40～12:10	講義Ⅳ 初めてでも安心～ 子どもの現場でのピアノ演奏の方法		
<b>3月9日（木）</b>			
9:00～10:30	講義Ⅴ 数学の面白さを知ろう～図形～	梅田	932 教室
10:40～12:10	講義Ⅵ レポートを書いてみよう	渡邊(由)	932 教室

#### 2. 初年次教育

こども学科に入学した1回生の学生は、学内オリエンテーションを受講した後、平成28年4月8日～9日に学外オリエンテーションとして「新入生宿泊研修会」に参加した。大学・短期大学部の新入生全員が、ガイダンスや交流会などを通して親睦を深める時間を過ごし、「大学の学びに向けて～実践につながる知識～」として、パズルを取り入れた日本語表現練習や英語の学習を体験した。こども学科では先輩の話を聞いてグループディスカッションを行うなど、学科の学びを知り、コミュニケーションを深める大切な機会となった。

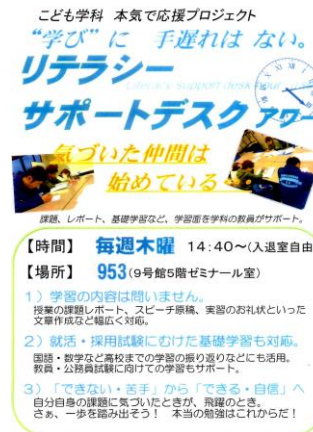


新入生宿泊研修で、先輩と意見を交わす



### 3. 基礎学習の見直しと実践

学生の基礎学力向上のため、学生が各々の課題や進路に応じて日本語表現や数学等の演習に取り組む授業「リテラシー教育」の平成29年度からの開講に向け、28年9月より学科では検討を重ね、その前段階として、11月より木曜日の4限に学生の基礎学習を複数教員で指導する「リテラシーサポートデスクアワー」を開始した。日本語表現と数学について、ジャンル別の問題を用意し、学生が自分で選択するようにしたところ、非常に意欲的な取り組みが見られた。今後も、学生が卒業研究や就職活動に必要な基礎学力・考察力を身につけられるように活用したい。



ポスター

学習風景

「リテラシーサポートデスクアワー」

### 4. 子どもの現場に学ぶ

#### (1) 授業と子ども研究センターとの連携

平成28年7月17日に、本学の子ども研究センター主催の「子ども応援ひろばパートI」が開催された。子ども学科4年次の演習授業「子育て支援演習」では、学生が「子ども応援ひろば」の企画・準備をして実践することで、親子の交流のあり方や子育て支援について学んだ。たくさん子どもと保護者に参加いただき、学生には学内での実践的学びの貴重な体験となった。



「子ども応援ひろばパートI」

#### (2) 附属幼稚園との連携

平成28年10月15日に開催された東大阪大学附属幼稚園の運動会に、子ども学部子ども学科の1年次A組は、必修授業として初等教育実習(幼)の中で参加した。また、1年次B組は2月に実習に行き、子どもの現場を体験した。

他に幼稚園の行事であるバザーやボランティア等において大学と連携し、子どもをさまざま



まな視点から見る事ができる場を提供していただいた。11月19日のバザーにはこども学科の学生も自主的に参加し、園児・保護者・地域の方々との触れ合いを通して学んだ。



附属幼稚園の運動会（初等教育実習Ⅰ）



附属幼稚園のバザーに参加する学生

## 5. 卒業研究発表会

12月15日に、丹山先生のゼミ生による卒業演奏発表会「パーカッションアンサンブルコンサート」を開催し、翌年2月6日には、卒業研究論文発表会を開催した。



「パーカッションアンサンブルコンサート」



「卒業研究論文発表会」

本年度より、発表プログラムを卒業生の保護者、実習園にも送付したことで、外部からの参加がより多く見られた。卒業生は、それぞれがゼミで取り組んで来た研究の成果を発表し、今後も深めて行くべき課題を見いだすことができた。



## [2] こども学部アジアこども学科

### 1. 入学前教育

平成29年3月6日、7日、9日の3日間にわたって、平成29年度の入学生を対象に下表のとおり、入学前教育を行った。入学生は全員留学生ということで日本語教育の強化に努めた。



日 程	アジアこども学科	
<b>3月6日(月)</b>		
9:00~9:30 全体会	全体ガイダンス	
9:45~10:30 講義Ⅰ	日本語能力テスト(AとBのグループ分け)	
10:40~12:10 講義Ⅱ	A:日本語を楽しもうⅠ	B:映画から学ぶ日本語Ⅰ
<b>3月7日(火)</b>		
9:00~10:30 講義Ⅲ	A:日本語を楽しもうⅡ	B:映画から学ぶ日本語Ⅱ
10:40~12:10 講義Ⅳ	A:日本語を楽しもうⅢ	B:映画から学ぶ日本語Ⅲ
<b>3月9日(木)</b>		
9:00~10:30 講義Ⅴ	A:日本語を楽しもうⅣ	B:映画から学ぶ日本語Ⅳ
10:40~12:10 講義Ⅵ	A:日本語を楽しもうⅤ	B:映画から学ぶ日本語Ⅴ

### 2. 大学祭の模擬店

10月30日の学園祭で、アジアこども学科の1回生がチーズ入りチキンから揚げの模擬店を開いた。なかなか評判も良く、見事に完売することができた。大学祭を初めて見たという中国出身の留学生が感激していた。

### 3. アジアこども学研修(フィリピン)

アジアこども学科2年生全員が参加する海外研修のための必修科目である。今年は、南国フィリピンのセブ島に行ってきた。

フィリピンでは英語が公用語のため、今回は英語の語学学校の「HOWDY(ハウディー)」へ宿泊し午前には英語のマンツーマンレッスン、午後は学校見学やアクティビティといったスケジュールであった。



HOWDYの寮からの景色



今回宿泊した語学学校は日本人のスタッフが24時間体制で常駐している。また、食事も日本人シェフが作るのとてもおいしかった。寮の横にはショッピングセンターがあり、そちらで日用品の購入や両替をすることができた。

英語の授業は、まずは読み書きスピーキングのテストで自分のレベルや得意不得意や、HOWDYで何を学んだいかなどを一人ひとりに担当の先生がつき、授業の内容をオーダーメイドで作っていく。



お世話になった先生方の前でスピーチ

今回は午前中に3コマの時間割であったが、すべて先生が変わり最初は不安だった学生たちもフィリピンの先生方の明るい気さくな授業で、すぐに打ち解けていた。最終日には先生たちの前で英語のスピーチを行えるまでになっていた。この一週間で学生たちの英語に対する意識がガラリと変わり、とても感動した。

研修2日目はセブでも富裕層の幼児から高校生までの子どもたちの通う B.R.I.G.H.T. Academy へ訪問した。こちらでは様々な国の生徒が在籍している。ひとクラスの生徒数は約20名である。国籍別に1クラス20%以上同じ国籍の生徒にならないように制限をかけているそうである。学校内の施設はバスケットコート、プール、コンピュータールームや家庭科室などがしっかりと完備されていた。

研修3日目は前日と打って変わり、セブでも最も危険とされる PASIL (パシル) 地区の中にあるマザー・テレサ孤児院へ訪問した。こちらにいる子どもたちは不衛生な環境で十分な栄養を取ることができず、衰弱した状態でこの施設に保護される。この施設では、子どもたちの健康が回復するよう、シスターとスタッフがお世話をしている。元気になって親元に帰る子どももいれば、別の施設に移っていく子どももいる。また、親元に帰ってもまたこの施設に帰ってくる子もいるそうだ。

そこではボールやおもちゃを使い積極的に話しかけてくる子や、まったく笑わない子、やせ細り体力がないのか自力では立てない子など様々な子どもがいた。学生は子どもたちにご飯を食べさせてあげたり裸足になって一緒に遊んだり、言葉の通じない中で一生懸命子どもたちと接していた。

学生たちはこの2日間の体験で貧富の差、生活レベルの差を感じたことであろう。セブには日本のお金持ちとは、けた違いの人もいれば、1日1ドル以下の超底辺で生きる人たちも大勢いる。そういった人々が混在しているセブだからこそ体験できた時間であった。

研修4日目はサンカルロス大学へ訪問した。こちらの大学は、フィリピンで最も古く1595年に創立された大学でフィリピンの学生だけではなく、留学生も多く通う大学であった。まずは、英語の堪能な学生さんが大学内の博物館へ連れて行って下さいました。

キャンパスツアーの後はサンカルロス大学の学生さんたちとの交流会があった。本学学生1人に2人の現地の学生さんが付いて下さり、1時間大学内の見学や食堂で学食を体験した



りしていた。最初はコミュニケーションがとれるか心配そうだった学生たちも1時間後には仲良くなって帰ってきた。

この度のアジア子ども学研修は南国セブ島だったので4日目には海へ行ってきた。午前中の授業を終えて昼食を終えた後、すぐにアイランドホッピング（島巡り）へ出発した。フィリピンは7,109の島々から形成されているので、セブでのアクティビティとしてアイランドホッピングが有名である。



### 30分ほど移動し車を降りて見えたとっても綺麗な海！

架を建てた。その場所は、初めてキリスト教徒になった王と女王を始めとする約400人が洗礼を受けた場所と言われている。今でもこの地には多くの人々が赤い蝋燭を灯し、願い事をしていく。

今回は1日目からぎっしりと予定の詰まっているハードスケジュールであったがそんな中でもショッピングモールに行き、セブ観光を楽しんでいた。セブ島には大きなショッピングモールがいくつかある。

今回の研修では移動がたくさんあったが、学生は窓の外を見て日本との違いを楽しそうに見つけていた。毎日が新しい発見の連続で、日本で生活しているだけでは味わえない感動・驚き・困難が体験できたと思っている。

5日目のサンカルロス大学訪問後にはサントニーニョ教会へ行ってきた。サントニーニョ=幼きイエスキリストの意味で、マゼランが贈ったとされるサントニーニョ像がある。サントニーニョ教会のすぐ側には小さな八角堂があり、その中にマゼランクロスと呼ばれるものがある。

フェルディナンド・マゼランは、太平洋を横断したポルトガル人の冒険家である。

1521年にフィリピンに上陸したマゼランは、キリスト教布教のために大きな十字





## 【東大阪大学短期大学部】

### 〔1〕 実践食物学科

#### 1. 入学前教育による学生の意識改革

入学前に、栄養士養成課程における学習への取り組み方を示すとともに、専門分野において必要な計算力あるいはレポートの書き方などの基礎学力を養成する必要があることから、平成28年度入試合格者に対して、入学前の平成28年3月7日、8日、10日の3日間にわたり、入学前教育を実施した。7日、8日は、栄養士を目指す学生向けの書籍(めざせ!栄養士・管理栄養士 まずはここからナビゲーション、第一出版)を使用した90分間授業を2コマ行い、10日に135分間(実習の1.5コマ分)の製菓実習を行った。大学の雰囲気を入学前に味わせることで、大学での授業に慣れ、進学と資格取得に対するモチベーションの維持ができ、入学後の栄養士養成課程へのスムーズな移行ができたと考えている。

また、平成29年3月6日、7日には、平成29年度入学生を対象に、下表の通り入学前教育が行われた。

日 程	実践食物学科(平成28年度より学科名称変更)		
3月6日(月) 受付	9号館1階ラウンジ 8:45から		
9:00~9:30	全体ガイダンス	832 教室	
9:45~10:30 講義Ⅰ	ガイダンス 短期大学で何を学ぶのか	松井	934 教室
10:40~12:10 講義Ⅱ	「食生活と食文化の基礎知識」	富田	934 教室
3月8日(火)			
9:00~10:30 講義Ⅲ	「栄養と体の基礎知識」	源	934 教室
10:40~12:10 講義Ⅳ	「食事バランスガイドを作ろう」	山下	934 教室

#### 2. 地域連携と産学連携による実践力の強化

地元大阪の「なにわの伝統野菜」、和歌山県特産の果実、兵庫県篠山市の特産物など近畿の農産物を活用し、東大阪市大学連絡協議会をはじめ、各地域の団体と進めている商品開発に繋がる取り組みを、各教員の個人研究のテーマとして進めていくだけでなく、栄養士コースの「調理学実習」や「応用栄養学実習」、「製菓実習」をはじめとした調理を伴う実習や「卒業研究」に積極的に取り入れることで、食物に対する知識を深め、食材の特性に沿った料理技術の習得を目指す実践的な教育を実施した。

##### ① なにわの伝統野菜を利用した商品開発

道の駅「かなん」(大阪府河南町)との共同研究で、卒業研究の「大阪産(もん)農産物を

活用したレシピの開発」で提案した『土手焼き風煮』が採用され、3/9 から近鉄阿倍野店にて開催された「道の駅 EXPO2017」にて試食販売会を実施した。



「道の駅 EXPO2017」ブース



土手焼き風煮

② オーラスターを利用した商品開発」

J A紀の里との共同研究で、オーラプテンを含む新規カンキツ「オーラスター」の果皮ペーストを利用したパウンドケーキを開発し、2/22、2/23「アグリフード EXPO 大阪」にて展示試食会を実施した。



オーラスターのパウンドケーキ



「アグリフード EXPO 大阪」

③ フルーツカレーパンの開発」

卒業研究の「東大阪フルーツカレーパンの開発」で和歌山県紀の川市の果実や柏原市のぶどうを利用したフルーツカレーパンの提案を行い、「東大阪カレーパンの会」にて商品化の検討を行ってもらっている。



フルーツカレーパンの試作



柏原ベリーAのカレーパン

④ 大阪市商工会議所との商談会の実施（予定）

兵庫県篠山市の特産物を利用した商品開発の提案するためのセミナーを東大阪市商工会議所と共同で5月に実施するための準備に入った。

3. 併設高等学校との高大連携強化

併設の敬愛高等学校調理・製菓コース3年生の生徒を対象とした単位互換科目として「食品学各論」、柏原高等学校スポーツコース2年生の生徒を対象とした「進路研究：栄養学の基礎」、柏原高等学校スポーツコース3年生の生徒を対象とした「フードマネジメント」といった授業を本学科の教員が担当し、高大連携を強化して栄養士、製菓衛生師それぞれの資格を目指す生徒への動機づけを行った。

また、「給食管理実習」の授業において、敬愛高等学校の調理・製菓コースの生徒を対象とした試食体験とアンケートを実施し、高評価を得た。



「フードマネジメント」実習



カップケーキ製作

4. 実践栄養のカリキュラムの実施

地域連携と産学連携の各テーマについて、前述したように必修化した「卒業研究」で取り組むとともに、各テーマに沿った内容の実習を「実践食品学実習」、「実践栄養指導実習Ⅰ」



及び「実践栄養指導実習Ⅱ」においても実施した。さらに、卒業研究においては、地域高齢者を対象とした「一人住まいの高齢者への献立提案」をはじめとして「こども応援広場における手洗い指導及びアンケートによる理解度調査」「ダイエットマドレーヌのレシピ考案及び商品化にむけた取り組み」「健康啓発イベント参加者における骨密度調査」や本学陸上部の学生に対して「大学生アスリートを対象とした実践的栄養教育法の検討」などをテーマとした実践的な栄養教育を行った。

また、栄養士養成課程コアカリキュラムに基づき、2年間でより効率よく学べるように、次年度に向けた「食品学総論」「生化学」「栄養学」についてシラバスの再検討を行った。

## 5. 初年次教育、リメディアル教育及びキャリア教育の充実

1年次の必修科目として「大学で学ぶⅠ」「大学で学ぶⅡ」を置き、高校までと大学での学習における学び方の違いを学生に明確に意識させ、スタディースキルを中心とした学習技術を伝達する初年度教育を実施し、2年次の必修科目として「社会人になるにはⅠ」「社会人になるにはⅡ」を置き、就職活動を支え学生自らの生き方を探るキャリア教育を実施した。

さらに、高校までの学習を補うリメディアル教育として、ベネッセコーポレーションの「マナトレ」を導入し、一日一回必修等の授業後に国語と算数のドリルを実施した。これにより、特に分数や割合といった計算力あるいはレポートの書き方といった基礎的な学力が欠如したまま過ごしてきた学生の存在が明らかとなり、実習等のレポート提出に影響を与えていることがわかった。

## 6. 実践栄養の情報発信

上記の地域連携での取り組みやイベントあるいは、「第8回葉酸たまご甲子園」などへの参加といった、学生の取り組みをブログやツイッターで積極的に発信し、本学での学習内容や成果を広く伝える機会を増やしてきた。

## 7. 学科の再編成

製菓衛生師の資格を取ることができるよう製菓衛生師養成施設としての設備を整え、定められた科目が履修できるような新たな科目と教員を設定・配置し、9月に大阪府に申請した。

この結果、本学科は、栄養士を目指す「栄養士コース」と製菓衛生師を目指す「製菓衛生師コース」の2コース制となるため、平成29年度より新たな体制で学生を受け入れるよう準備を進めてきた。



## [2] 幼児教育学科

### 1. ダブルアシスト制の充実

クラス担任教員（アドバイザー）と小グループ担当教員（コーディネーター）とのダブルアシスト制を導入することにより、これまでの担任だけでは充分に対応しきれない問題にも対応することができた。特に、学科専任教員全員で学生達とかかわることで、学生と教員との距離感が縮まり、教員も個々の学生についての理解を深めることができ、学生たちも履修や実習での相談を積極的にするようになってきた。27年度から必修となった卒業研究発表もこのダブルアシスト制を活用することにより、学生たちに、「書く力」「調べる力」「発表する力」の基礎をつけていくことができた。

### 2. 入学前教育の実施

入学前教育を充実させ、大学での授業に興味を持ってもらうための模擬授業や各種実習（幼稚園・保育所・施設）についての説明を行い、附属幼稚園の見学といった体験授業を行った。

また、学科の特性の一つでもある音楽教育についても、全体での指導や、希望者のための個別講習会を実施して、入学予定者と学科教員が一緒になって講習を行った。

なお、平成29年度入学生を対象に、平成28年3月6日、7日の2日間にわたり、下表の通り入学前教育を行い、多くの入学予定の学生の出席があった。

日 程	実践保育学科（平成28年度より学科名称変更）		
<b>3月6日（月）</b>	受付 8:45 から		
9:00～9:30 全体会	全体ガイダンス		
9:45～10:30 講義Ⅰ	短期大学で何を学ぶのか	永久（学科長）	851 教室
10:40～12:10 講義Ⅱ	「各種実習についての話と附属幼稚園での体験学習」 野尻・後藤 851 教室・附属幼稚園		
13:00～14:30	「ピアノ講習会」（希望者のみ）	篠原	2号館音楽棟
<b>3月7日（火）</b>			
9:00～10:30 講義Ⅲ	「保育英語と日本語あそび」	大矢・後藤	
	「音楽を楽しもう」	篠原	
	*		
10:40～12:10 講義Ⅳ	「新聞 News から保育を知る」	西木・小宅	
	「音楽を楽しもう」	篠原	2号館音楽棟
3:00～14:30	「ピアノ講習会 Ⅱ」	篠原・平松	2号館音楽棟
	*講義は2クラス入れ替え制で実施		



### 3. 新入生宿泊オリエンテーションの実施

新入生を早く大学生生活に慣れさせるために一泊二日の宿泊オリエンテーションを実施。資格取得に向けての手立てや大学での学習の心得などを宿泊オリエンテーションで指導した。

新入生同士の親睦を深めることができるように留意したことにより、大学生生活になじみやすい環境もできた。



宿泊研修での様子

### 4. 資格取得について

現在は、幼稚園教諭2種免許状、保育士証、社会福祉主事任用資格、認定ベビーシッター資格の取得が可能になっているが、28年度にあつては、これらの4つの資格をすべて取得した学生は少数で、多くは幼稚園教諭と保育士資格を2つを取得する学生が大半を占めた。幼稚園または保育士のいずれか1つの資格しか取得せず、あるいは資格を取得しないまま卒業して行く学生も若干名いたが、全体的には9割強の学生が何らかの形で保育系関係施設に就職した。

特に今年は初めての試みとして、6月23日に本学内において保育系施設関係者による就職説明会を開催し、学生たちも熱心に各テーブルを回っていた。



保育系施設関係者による就職説明会の様子



## 5. 学生の学習状況について

実践保育学科では、できる限り学生が幼稚園教諭2種免許状、保育士証、社会福祉主事任用資格、認定ベビーシッター資格の4種類の資格をすべて取得するように指導してきた。特に、認定こども園などの増加傾向にある保育行政の推移を考えながら、保育教諭として認められるには、幼稚園教諭2種免許状、保育士証の2つの免許・資格が必要であることを学生たちには、新入生宿泊オリエンテーションや、機会あるごとに学科の教員がそれぞれの授業の中でも詳しく説明をしてきた。

また、昨年からは2年間の学業の集大成として、クラス単位での卒業研究発表会を2月に行ってきたおり、附属幼稚園や近隣保育所の園児や本学のこども研究センター利用の子どもたちを招待して実施している。今年は、附属幼稚園が園行事と重なっていたため来校できなかったが、近隣のうみがめ保育園とむぎの穂保育園の園児や、こども研究センター利用の子どもたちを招待しただけでなく、大学に隣接する東大阪市立西堤小学校の1年生児童や、保育の基礎を学んでいる本学敬愛高等学校のこどもコースの学生も発表会に招待した。



卒業研究発表会におけるクラス別発表の様子

## 6. 施設の課題について

7号館校舎の解体、建て替えに伴い、既存校舎の有効利用が必要となり1号館や4号館教室の有効利用を今年も進めてきた。学生たちにとってより充実した教育環境づくりができてきている。



## 【大学・短期大学部共通】

### [1] 教学部（教学支援課教務担当）

#### 1. 教室の運用見直し

7号館の取り壊しにより、情報教室及び情報教育センターを8号館に移転し、本年度から運用を開始した。これにより、情報関係で2つの教室が使用できるようになったため、その運用と割り振りをを行った。

また、来年度開設の実践食物学科製菓衛生師コースに対応できるよう815実習室に備品類を整備した。



861 情報処理演習室



815 製菓実習室

#### 2. 開講科目について

大学において、学年進行に伴い、徐々に教養科目が減少し専門科目が増加し、学生が4年間で平均して受講できるよう楔型履修方式のカリキュラム編成とした。履修学生が極端に少ない科目については、一部の授業に関しては未開講としたが、開講年次及び時間割を検討して、履修に偏りが出ないように配慮を行った。

また、留学生の増加が見込まれるため、留学生用の科目の新設やクラス分けを行った。本年度も引き続き、科目を選択する際に学生に不利が出ないことを前提として、学生のニーズと社会のニーズに応えるようなカリキュラムの検討を行う。

#### 3. 履修方法の検討

本学では、Universal Passport のシステムを利用した Web による履修登録を行っているが、登録後に訂正が必要となるケースが見受けられる。登録方法、登録確認、登録変更方法についての指導をするとともに、再確認機関を設けて、学生、アドバイザー及びゼミ担当教員による登録確認を徹底し、学生の履修に支障が生じないようにした。

#### 4. 外部機関での実習

多くの学生が各資格取得のために外部の学校・施設等の機関において外部実習を行っているが、学生が実習の直前あるいは途中で辞退を申し出ることのないよう、事前指導の際にヒアリングを行う各実習担当者との情報共有し、学生の意思の確認を徹底した。





また、保育実習で施設実習を選択することができるが、受け入れ先の確保が難しく、特に受け入れ先の要望から定められた実習期間での実施ができないケースがある。このため、一部の学生は、実習期間を変更した異期履修で対応し、施設実習を希望する学生全員の実習を実施することができた。

## 5. 年間スケジュールの見直し

学校行事のスケジュールとの調整を図りながら、月曜日の休日や実習期間中の補講により行なわれる土曜日に授業を可能な限り減らし、学生が履修しやすいよう配慮した。

## 6. 公開授業の実施

本学の社会的責務と地域との連携を図るために、次の4回の公開講座を実施した。

地域の方々や学生等にホームページ・ポスター・チラシ・市政だよりによって案内をし、FAXとメールによって受講希望者は申し込み、本学にて受付を行う。全講座参加費は、無料となっている。

### ◆12/3（土）「災害時における食と健康」－救荒食としての昆虫－

講師：松井欣也（短期大学部実践食物学科）



### ◆12/3（土）「伝承あそびをしましょう」－身近な人と親しみ互いに関わりを深めましょう－

講師：野尻美津代・後藤由美（短期大学部実践保育学科）





◆12/17 (土)「音楽で世界の旅」ーマリンバとピアノコンサートー

講師：丹山三恵子・尾崎克典・阿久津啓・太田寛子・北野久美子 (大学こども学部こども学科)



◆12/17 (土)「統計にだまされない」ー統計の正しい見方ー

講師：谷口勝英 (大学こども学部こども学科)



7. 大学コンソーシアム大阪の単位互換

大学コンソーシアム大阪の単位互換事業として、次表のように他大学の学生を受け入れた。

学期	科目	所属大学	人数	単位認定者数
前期	流通政策論	近畿大学	1名	1名
後期	こども学Ⅱ	近畿大学	6名	3名
		大阪商業大学		1名

8. 免許更新講習の開催

8月18日(木)～20日(土)、22日(月)～24日(水)の6日間で実施し、必修領域に194名、選択必修領域に189名、選択領域に590名の延べ973名の受講者があった。(昨年



度より延べ人数 317 名増) 特に、主として幼稚園教員免許状を対象とした講習には、申し込み受け付け初日で定員を超える申し込みがあったものもあり、当初予定のなかった土曜日に開講日を追加したものや、教室を大講義室に変更して開催したものもあった。

参加者にはアンケートをお願いしたが、講座内容については概ね好評で、特に実技を伴う講座については、評価のなかで 4 点満点の 4 点あるいは 3.9 点以上の評価をいただいたものもあった。

参加者の感想の中には、「観察することの大切さを改めて再認識した。」「卒業生です。なかなか母校に来る機会がなかったので、うれしいです。」「6 時間あつという間であった。今日の内容を自分のカラーに合わせてながら授業や指導に取り入れたいです。」など、感謝の言葉も多くいただいた。

また、授業を担当した教員からは、「時間が短く感じた。もっとやりたかった。」「受講者の方の聴く姿勢を見ていると、こちらまで熱が入った。」などの声があった。

6 年目となる平成 29 年度も、「平成 29 年度東大阪大学教員免許状更新講習認定講座」の開催に向けて準備を進めているが、さらに、よりよいものを目指して討議を重ね、多くの方に、東大阪大学で受講していただけるようさらに工夫を重ねていく。

## 9. 高大連携について

本法人の併設校である東大阪大学敬愛高等学校との高大連携授業として、大学では「脳と心」、短期大学部実践保育学科では、「社会学」、同実践食物学科では「食品学各論」を単位互換科目として開講し、内部進学者には本学での単位を認定した。

また、同併設校である東大阪大学柏原高等学校との高大連携授業として、スポーツコース 2 年生を対象に「栄養学の基礎」、スポーツコース 3 年生を対象に「フードマネージメント」の 2 科目の高校の授業を本学の教員が担当し、それぞれのコースの特色を生かした授業を実施した。

## 10. 短期大学部改組への対応

実践食物学科が製菓衛生師養成施設として登録され、栄養士コースと製菓衛生師コースとなることから、その申請の手続きを総務部とともに行うとともに、製菓衛生師コースのカリキュラムの編成を行った。

介護福祉学科の申請に伴う諸手続きへの対応をした。



## [2] 教学部（教学支援課学生担当）

### 1. 新入生宿泊研修の実施

新入学生のオリエンテーションの一環として平成26年度より実施している宿泊研修を、平成28年4月8日（金）～9日（土）大和高原 ポスコヴィラにおいて実施した。宿泊研修では、学生同士、教職員とのコミュニケーションを図るとともに、学科ごとに履修登録、実習についての確認、宿泊研修ならではの楽しい授業、先輩からの学生生活のアドバイスをを行った。9日には、レクリエーションとして、クイズ大会、バーベキュー等を行った。

### 2. 社会のルールや人との約束を守れる信頼できる人物に

オリエンテーション時に、学生生活における注意事項をまとめた冊子「学生の皆さんへ」を配付し、カレッジガイド・キャンパスガイドの内容とともに、平成27年度の道路交通法及び選挙制度の改定により、学生の社会に参加する一人の人間として必要な人間力の向上が高く求められている事等を中心に指導した。その他、1年を通して、掲示板等に注意喚起のポスター掲示を行い、継続的に啓発を行った。

### 3. 地域社会とのつながりで社会人基礎力を

有志学生で組織される学園祭実行委員会が、東大阪市地域の方々や企業等に協力・援助を依頼し、翔愛祭の成功という目的を達成する為に活動をしている。その活動の中で、地域で活躍されている方々とコミュニケーションを取り、物事を相手に伝える力や聞く力を身に付け、幅広く情報を集めるという体験の中から、社会人として必要な能力を身につけることが出来るようになる。

平成28年度の翔愛祭は、テーマを「挑戦 ～One for all, All for one～」とし、平成28年10月30日に開催した。

今年度は、本学7号館の解体工事により大学祭の開催できるスペースが例年より狭くなる中で行った。大学祭実行委員会のメンバーも制約の中で効率的な催し物、模擬店等の配置に腐心し開催したが、来場者については、前年度より増加した。また、外部の来場者、特に子どもが多い事も本学大学祭の特徴となっている。

### 4. ボランティア等社会貢献活動を通して、社会参加を

ボランティア等の依頼情報を常設の学生ラウンジ掲示板に適宜掲示を行った。学生はこの掲示板、もしくは、担当教員からの情報提供に基づき、小学校の放課後学童指導等のボランティアに参加した。

### 5. 学生が主導する行事等の実施

昨年度より始めたランチタイムコンサートを本年度も継続して実施した。昨年度より開催回数は少なくなったが、今後も学生会、学友会が中心となり、継続できる土壌はできた。



## 6. 学生のキャンパスライフの充実を図る

平成27年度に行った改装をうけて、さらに、8号館6階の空中庭園の開放を行った。また、コンビニ（Vショップ）の開店及び学生食堂を敬愛高等学校と統合し、学生の利便性を向上することができた。

また、学生たちの大学に対する要望を吸い上げるため、学内ロビー3か所に「学生意見箱」を設置した。毎週木曜日に回収し、学生部会において記入された意見への対応について検討することになっている。学生食堂や本年度秋に開店したコンビニについての要望等が寄せられ、対応した。

## 7. クラブ活動について

2016年度各クラブの部員数は、次のとおりである。

### 文科系クラブ（6クラブ）

クラブ名	顧問	部員数
ダンス	渡邊ルリ	8
文芸	渡邊ルリ	0
人形劇（ブロッサム）	川瀬弘樹	5
フォークソング	谷口勝英	7

2016年度は、クラブ数が11クラブ、総部員数が98名となった。

上記以外に、同好会として「音楽サークル（顧問：丹山三恵子）」2名が活動した。

### 体育会系クラブ（7クラブ）

クラブ名	顧問	部員数
空手道	野々村宜博	7
フットサル	渡邊由之	9
バスケットボール	竹中美香	14
バドミントン	野々村宜博	5
バレーボール	菊岡昭子	13
軟式野球	後藤由美	15
陸上競技	柿内貞宣	15

### ○大会結果

公式大会における目立った記録としては別表のとおり、本学陸上競技部が、日本陸上競技選手権大会等の全国大会において、素晴らしい成績を残してくれた。

今後のますますの活躍が期待される。

大会名：GP 第32回静岡国際陸上競技大会				
開催月日：5月3日			場所：静岡県 エコパ	
種目	氏名	学年	記録	順位
400m	石塚 晴子	CS1	54秒79	2位

大会名：セイコーゴールデンランプリ陸上 2016 川崎				
開催月日：5月8日			場所：神奈川県 等々力	
種目	氏名	学年	記録	順位
400mH	石塚 晴子	CS1	56秒75	2位

※今回の記録は日本ジュニア記録である。



大会名:アジアジュニア				
開催月日:6月2日~6日			場所:ベトナム・ホーチミン	
種目	氏名	学年	記録	順位
400m	石塚 晴子	CS1	55秒40	3位
400mH	石塚 晴子	CS1	57秒91	優勝

※アジアジュニア大会の日本代表に選出されました。

大会名:2016日本学生陸上競技個人選手権大会				
開催月日:6月12日~14日			場所:神奈川県 BMW スタジアム	
種目	氏名	学年	記録	順位
400mH	石塚 晴子	CS1	58秒66	優勝
やり投	瀧川 寛子	AS4	56m79	優勝

※やり投の瀧川さんの記録は大会新記録である。

大会名:第100回日本陸上競技選手権大会				
開催月日:6月26日~28日			場所:愛知県 瑞穂運動公園	
種目	氏名	学年	記録	順位
400mH	石塚 晴子	CS1	57秒88	3位
走高跳	津田 シェリアイ	AS2	1m70	3位

※今大会 400m でも石塚さんは4位入賞をしております。

大会名:U20世界陸上競技選手権大会				
開催月日:7月19日~24日			場所:ポーランド・ビドゴシチ	
種目	氏名	学年	記録	順位
400m	石塚 晴子	CS1	55秒20	
400mH	石塚 晴子	CS1	58秒55	

※世界ジュニア大会の日本代表に選出されました。

大会名:天皇賜盃第85回 日本学生陸上競技対校選手権				
開催月日:9月2日~4日			場所:埼玉県 熊谷	
種目	氏名	学年	記録	順位
400mH	石塚 晴子	CS1	55秒20	2位
やり投	瀧川 寛子	AS4	54m76	3位

※400mHのこの記録は大会記録である。

大会名:第32回日本ジュニア選手権				
開催月日:10月21日~23日			場所:愛知県 瑞穂運動公園	
種目	氏名	学年	記録	順位
400m	石塚 晴子	CS1	55秒01	3位
400mH	石塚 晴子	CS1	58秒78	優勝



『天皇賜盃第85回日本学生陸上競技対校選手権大会』石塚晴子 400mH 決勝



『2016関西学生陸上競技種目別選手権大会』  
津田シェリアイ 走高跳1m73 2位表彰台



『第100回日本陸上競技選手権大会』瀧川寛子 やり投決勝



『第17回アジアジュニア陸上競技選手権大会』石塚晴子 400mH 優勝



### [3] 入試広報部

#### 1. 入試制度

本学で学んだいという意欲ある学生を受け入れるため、入試制度について下記変更を行った。

- ◇特別協定高校をこれまでの19校から20校に1校増やした。また、新たに日本語学校1校とも協定を結んだ。
- ◇AO入試の受験手続きを簡略化するために、エントリーシートを自己推薦書に変え、他の出願書類と一括で提出するように変更した。これで1回の出願手続きで受験が可能となった。
- ◇帰国生のために帰国生入試を新たに設定した。入試内容は留学生入試と同様で、自己推薦書に基づいた面接試験で合否判定を行っている。

#### 2. 広報活動

学内関係部署と連携を図りながら、効果的な広報活動を行った。ホームページや各種広報媒体、ダイレクトメールなどによる情報発信、高校相談会や高校訪問及び大学見学会などを通じて、本学の魅力や特色を受験生、保護者、高校教師に伝える活動を展開した。具体的には、次のような広報活動に取り組んだ。

- ◇大学・短大案内は高校生が興味を持ってくれる内容にするため、写真を増やして、わかりやすい表現にした。
- ◇各種広報媒体については、費用対効果を考慮して、実施媒体を厳選した。
- ◇会場式相談会や高等学校内進学説明会への参加については重要度の高い高校を優先したほか、本学教員による高等学校等への模擬授業に積極的に参加した。
- ◇高等学校等への訪問については一年を通して実施しており、近畿圏を重点地域とするほか、オープンキャンパスの参加者の高校にも訪問し、本学の概要や学部、学科の紹介、入試説明などを行った。
- ◇高校生にとって興味深い出張授業を企画した。具体的には、全教員が参加した出張授業一覧表を作成して、主に大阪府下の高校に配布して本学の教育内容を紹介した。出張授業の依頼は2校あり、要望に対応した。
- ◇関係部署と連携してホームページによる情報発信を行ったほか、高校生がよく利用しているスマホやSNS等の電子媒体による広報活動も行った。

#### 3. オープンキャンパス

開催日数を昨年度の9回から今年度は6回に変更したが、参加者数は315名で昨年度より70名減少した。

なお、今年度はクラブ紹介や在校生を主体にした運営など新たな試みを行い、昨年度とは違った雰囲気オープンキャンパスとなった。





- ・ 学科説明会やミニ体験授業
- ・ 学科個別相談や入試相談
- ・ 学生スタッフによるキャンパスツアー
- ・ クラブ紹介



ミニ体験授業風景



個別相談風景

#### 4. 高校教員対象入試説明会の開催

大学・短大をアピールして受験者数の増加につなげるため、シェラトン都ホテル大阪において高校等の進路指導担当教員を対象にした大学説明会を開催した。参加校は38校で、昨年より3校減少した。

大学・短大の学科説明、入試や奨学金の説明を行った後、参加者と和やかな雰囲気懇談会を行い、相互理解や情報交換などを促進することができた。

#### 5. 入試結果

今年度の入試結果を下表に示す。今年度はアジアこども学科の入学者（留学生）数が大きく増加しているが、他学科は定員割れとなっている。昨年度と同等以上の広報活動を展開しているが、特別協定校や指定校からの受験者、地元からの受験者が減少している。本学に対する関心度が低下していると推測されるので、本学の魅力や特色をどのようにアピールしていくか、再検討が迫られる。

学 科	受験者数	合格者数	入学者数	入学者数 昨年度比
こども学科	51	51	47	-10
アジアこども学科	46	45	43	32
大学合計	97	96	90	22
実践食物学科（栄養士コース）	36	36	33	4
実践食物学科（製菓衛生師コース）	4	4	4	4
実践保育学科	65	64	62	12
短大合計	105	104	99	20
大学・短大合計	202	200	189	42



## [4] 図書館

2016年度の入館者数は、教職員を含めて3,639人、延べ貸出し冊数は、1,668冊で、いずれも昨年度より減少した。今年度から実施された新入生全員にPC購入させる制度の導入や学生数の減少が一因だと考えられるが、いかにして利用者数を増やすことができるか、図書館の大きな課題となっている。

### 1. 教育・研究に役立つ資料の収集と提供

(1) より良い教育と研究環境の構築を目標に、収書方針に従い、2016年度も引き続き「辞書・事典参考図書」及び本学図書館の一大特色として目指している各国言語によるテーマ別「アンデルセン絵本コレクション」の充実を図ってきた。

その結果、2016年度末までの「辞書・事典類」は計2,443冊となり（二階参考書コーナーのみの集計、書庫にある古いものは計上していない）、「アンデルセン絵本コレクション」は前年度より2冊増え、合計35ヵ国・地域、25言語数の413冊となっている。

当該コレクションの構築は長期にわたって継続収集する必要があるが、予算の削減は冊数及びテーマの拡充に影響を与えている。

(2) 2016年度末までの蔵書数は以下のとおりである（括弧内は前年度末の数字）。

和書	72,246冊 (71,636)	洋書	6,205冊 (6,237)
雑誌	609誌 (607)	AV資料	3,616点 (3,609)

洋書の冊数を除けば、いずれも前年度より増えている。特に和書は、厳しい財務状況のなか、610冊の増加があった。和・洋書の合計は、現在7,8000冊を超えている。

勿論、私立単科大学附属図書館の115,552冊の平均蔵書数（『平成27年度学術情報基盤実態調査結果報告』、文部科学省研究振興局情報課、2016年3月）と比較すれば、まだ相当な距離があり、更なる努力が求められている。

### 2. 図書館各種企画事業

2016年度も学生の図書館利用を促進し、教育活動を支援する目的で、各種企画を下記のとおり実施した。

(1) 新しい展示コーナーの設置

2016年秋に、新しい展示コーナーを設置した。第1回の提示テーマは「小学校国語教科書からみる近代日本の歩み」であった。明治初頭から現在までの小学校国語教科書の復刻版や参考資料を展示し、教科書内容の変化を通して近代日本の歴史及び教育の変遷の一部に触れることができる。

また、「アジアの中の日本・日本の中のアジア」という企画コーナーも同時に設置し、日本とアジア諸国はどのような関係を築いてきたのか、今後はどのように変化していくのであろうか、関連書籍の展示・紹介を行っている。



## (2) 図書館通信「螢窓」

図書館員の異動の影響で10月秋号の発行を見送りが、4月の春号を予定通り発行した。連載「ワールド訪書の旅」は最終回を迎え、次号から新企画を始める予定である。

## (3) 学生による選書ツアー

上述した図書館員の異動の影響で今年度は実施していない。

## (4) 読書コンクール

上述した図書館員の異動の影響で今年度は実施していない。

### 3. 急を要する配慮事項

#### (1) 蔵書収納スペースの確保

現在、蔵書に対して収納スペースが狭隘となり、配架不可能な書籍が段ボール箱に収納されている状態である。この書籍の閲覧・貸出し手続きが非常に困難である上、新たな蔵書の整理も円滑に進まないため、新たな書架スペースを確保する必要がある。

#### (2) セキュリティー装置の導入

2016年度蔵書点検の結果、新たに不明本が発覚され、セキュリティー装置の導入の緊急性を改めて認識させられる。

セキュリティー装置の未整備のため、懸案の地域社会貢献の一環としての外部開放計画の推進には課題がある。

## [5] キャリアサポートセンター

### 1. 就職支援対策講座

①学外の講師を招き、就職試験対策講座を実施した。講座の内容は履歴書やエントリーシートの書き方、面接対策、ビジネスマナー、パソコン講座などである。

②小学校教員採用試験対策として、教員が対策講座を開講した。

### 2. 就職活動支援

①各種就職フェアのチラシを掲示板に貼付し学生へ周知した。また重要なフェアについては学内メールで周知し、参加誘導を図った。

②企業やその他就職先の担当者を本学に招いての個別説明会（ニチダン）を実施した。

③合同企業説明会を実施した。34法人の参加があった。

③本学卒業生が就職している施設（天王福祉会）の見学会を実施した。

### 3. キャリア教育支援

キャリア教育の一環としてインターンシップ実習を支援した。具体的には、大学コンソーシアム大阪、東大阪商工会議所、東大阪市役所、野村證券、私立幼稚園、その他民間企業の窓口として、インターンシップ実習を支援・促進した。ただし今年度の参加者はなかった。



#### 4. 就職先の開拓

学生の就職先を拡充するために、①各種就職フェアに参加し情報収集し求人先を広げた。  
②東大阪商工会議所、奈良経済産業協会、大学新聞社等の主で企業と大学との打合せ会に参加し大学・短大を紹介して求人情報・企業情報の収集を行った。

#### 5. 進路指導・相談

就職ガイダンスや就職状況説明会、就職先紹介などを適宜行い、学生に就職情報を提供するとともに、就職活動に関する個別指導（書類作成、面接対策など）・相談などの就職支援を日常業務として行った。

〈平成28年度就職・進学状況〉

平成29年3月31日現在

	学 科	就職希望者の就職率 (%)			進学 (名)
		男 性	女 性	合 計	
大 学	こども学科	100.0	96.0	98.0	0
	アジアこども学科	100.0	50.0	60.0	1
	合 計	100.0	89.0	94.0	1
短 大	実践食物学科	100.0	100.0	100.0	0
	実践保育学科	100.0	93.0	94.0	0
	合 計	100.0	95.0	96.0	0

### 【6】 基盤教育研究センター

#### I. 初年次教育について

初年次教育として以下の授業を必修科目として開講した。

大学1回生「大学で学ぶⅠ」「大学で学ぶⅡ」

短大1回生「大学で学ぶⅠ」「大学で学ぶⅡ」

#### 2. キャリア教育について

キャリア教育として以下の授業を2回生については必修として、3・4回生については選択必修として開講した。

大学2回生「キャリアを考えるⅠ」「キャリアを考えるⅡ」

短大2回生「社会人の基礎Ⅰ」「社会人の基礎Ⅱ」

大学3回生「キャリア形成論Ⅰ」「キャリア形成論Ⅱ」

大学4回生「社会人の基礎Ⅰ」「社会人の基礎Ⅱ」



### 3. リメディアル教育について

リメディアル教育用に(株)ベネッセ i キャリアの「マナトレ」を教材として下記を実施した。

- ①大学・短大1・2回生対象に学力を測るプレースメントテストを実施。
- ②大学・短大1・2回生を対象に毎日国語・数学の小テストを実施。
- ③小テストを採点しスキャナーを取りデータ整理し答案は半期終了時に学生に返却した。  
また、データを個人毎・クラス毎に整理集計し、教員に回覧し学生指導の資料とした。
- ④補習の時間を設定し学生のフォローを行った。

### 4. キャリア教育の研究

来年度リメディアル教育の教材として、前述の「マナトレ」に代えて「ラインズドリル」を使用教材として検討を行い、ほぼ導入を決定した。

「ラインズドリル」は、基礎学力強化のための教育ツールであり、今後初年次教育や就職準備段階としての一般常識試験やSPIへの対応力を高めるために活用していく。本学では、「ひがドリ」とネーミングし、学生たちが取り組みやすい環境づくりとして無線LANのインフラも整備して、パソコンやスマートホンからもテストを実施することができるようになる。

## [7] 異文化研究交流センター

### 1. 海外研修の支援

アジアこども学科では、平成28(2016)年11月に教員2名の引率の下、今年も「アジアこども学研修」を実施し、フィリピンセブ島を訪れ、英語のマンツーマンレッスンを15コマ、各種施設・学校見学及びフィリピンの学生との交流を行った。

### 2. 留学生のためのチューター制度の実施

平成28(2016)年4月入学の留学生7名のために、チューターとして日本人学生7名を選び、留学生の学生生活支援を行い、日本人学生と留学生との親睦を図った。本年度は地元の石切り祭への参加イベントや、ハロウィンパーティーを行った。

### 3. 留学生の学生生活支援活動

留学生の学生生活を支援するために、①在留資格「留学」の資格更新のための申請書類作成、②日本学生支援機構やその他機関による学習奨励費(奨学金)の募集、決定の事務処理を日常業務として行った。

月別相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
生活相談	47	32	26	37	2	1	41	39	34	12	1
事務手続	12	7	3	4	1	0	2	1	1	2	1



#### 4. 留学生募集広報活動

学生募集の窓口である入試広報部と協力して、留学生募集のために日本語学校へ募集活動を行い、一定の成果を挙げる事ができた。

#### 5. 海外 NGO・NPO 就業支援

海外青年協力隊、日本語サーポーターズ等の海外ボランティア活動の情報提供を行い、希望者に就業支援を行った。

#### 6. 国際交流クラブの立ち上げ

本学学内での国際交流活動だけでなく、東大阪市内在住外国人との交流活動や学内語学学習促進活動を目的とした同好会を設立。活動支援を行った。

#### 7. 外国人お料理自慢大会

東大阪日本語教室との共催で、地域の外国人の方と本学の学生によるお国自慢お料理大会を実践食物学科と合同で開催しました。

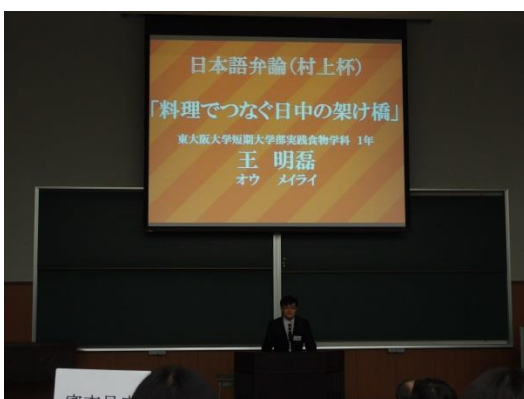
出場者6名（本学学生2名、東大阪日本語教室4名）参加者数は約50名で本学の学生や地域の方や、東大阪日本語教室の方が多く参加されました。

普段食べることのできない外国の料理に参加者はとても興味を持って観覧していました。

また、本学実践食物学科の学生が料理の手伝いに入り、普段あまり関わることのない外国人の方々との交流を楽しんでいました。



#### 8. 各種語学関連の弁論大会の開催



留学生による日本語弁論大会（村上杯）、日本人学生による外国語（英語・中国語）弁論大会（吉岡杯）を開催しました。日本語弁論大会に出場した留学生は、日頃の学習成果を披露するいい機会となりました。

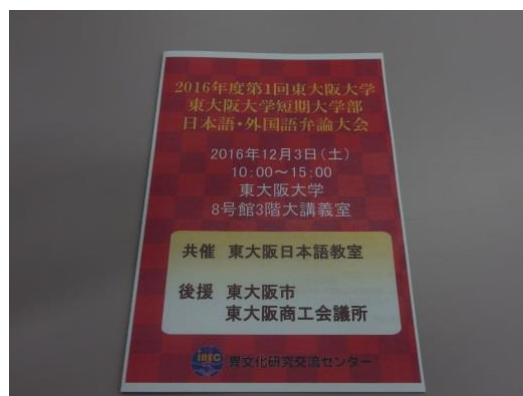
また、東大阪日本語教室の外国人学生も参加し、普段知り合うことのない学生以外の日本語学習者との出会いに刺激を受けていたようです。

外国語弁論大会は、日本人学生にとっては英



語で発表した学生はより英語に対する学習意欲が高まり、中国語で発表した学生は中国に対する興味が高まったことが実感できました。

大会後の交流会では東大阪日本語教室の方や地域の方との交流の場となり、日本語学習についての情報交換などが行われました。



東大阪市・東大阪商工会議所に後援いただきました。

## [8] 情報教育センター

### 1. 平成28年度新生にPC購入の実施と次年度計画の成立

学生が自由に利用できるコンピュータ環境を拡充し、学生のコンピュータ所持率を高めるために、前年度に計画した新生PC購入を実施しました。また、平成29年度からは大学と短期大学部新生全員対象（既にPCを所持している学生を除く）に、PC購入を推奨させることが決定しています。

### 2. キャンパスネットワークの無線アクセス拡充

学内の様々な場所での無線LANアクセスを可能にしました。9号館の4教室にそれぞれ3箇所のアクセスポイントを設置しました。

また、8号館1階、9号館1階それぞれの学生ホールに加えて、1号館1階の学生ホールでもWiFiが使用可能になりました。

### 3. 学生支援の一環としてOfficeの配布実施

学生全員が無償でOfficeを利用できるようにライセンス購入形態を変更したため、オフィスを学生がインストールできるようにしました。

### 4. ネットワーク機器の更新

セキュリティの強化と機能の向上のためネットワーク機器をいくつか新しい物に交換しました。



## [9] 保健センター

保健室及び学生相談室の活用について、より多くの学生・教職員に周知を図るよう努めた。また、学生の状況に応じて、協議を重ね、学生のメンタルヘルスの向上に貢献した。

保健センターでは、「保健室」と「学生相談室」を設け、「こころ」と「からだ」の両面から支援する体制をとっている。基本的な活動として、①健康診断の実施とその結果に基づく健康管理・健康増進支援、②心身の健康相談・支援、③安全衛生諸活動 などがある。

定例の教授会では、毎月利用状況の報告をした。

### (1) 保護者面談

例年通り保護者面談を入学の式当日に実施し、学生の心身の健康に関する相談にのった。情報については、保護者の同意を得て管理職をはじめ当該学科に報告し、校医・教職員などと連携して入学後のより良い学生支援に繋げた。疾病、障害に関することなど様々な相談があり、保護者面談をきっかけに、継続した学生支援につなげることが出来た。

### (2) メンタルヘルス

学生の状況に応じて、事例研究・支援の進め方について密に協議を重ね、学生のメンタルヘルスの向上に貢献した。

### (3) 啓発活動

学生・教職員のより良い支援を目指すため、保健センター通信「NEWS LETTER」を4回発行し、啓発活動に努めた。心身の健康に関して、学生生活に役立つ情報を発信し全学生・全教職員に配布した（下図参照）。

学内の救命講習を開催し、学内の救急対応の充実を図った。

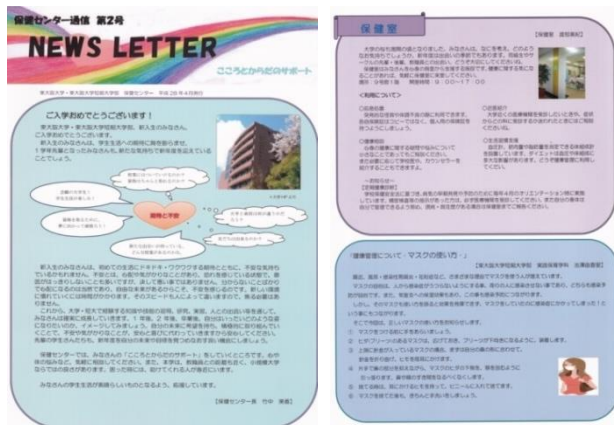
東大阪市保健センターから講師を招き、自殺予防に関する講習会を開いた。27名の教職員の参加があり高評を得た。

### (4) その他

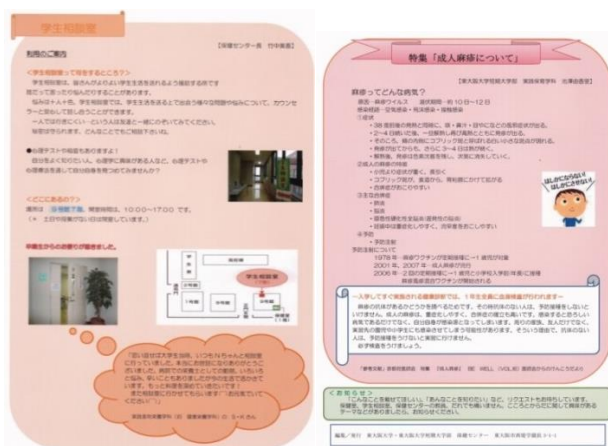
近年、多様な学生が入学してくることを踏まえ、保健センターが利用しやすい場所となるように努めた。保健室と学生相談室の連携を密にし、協働支援すべく環境整備を図った。

また、学生生活に不安をもつ学生や、配慮の必要な学生への対応を講じ、中途退学の予防に努めた。





ニュースレター表面 (平成28年度第2号)



ニュースレター裏面 (平成28年第2号)

## 1. 保健室

保健室では、学生・教職員の健康診断、健康相談、突発的な傷病に対する応急処置を始め、健康診断証明書の作成、学生・教員健診のデータ管理、学生教育研究災害障害保険の手続き、各種業務統計及び各種届出等を行っている。また、学生が利用しやすい場所に設置されていることもあり、その他学生生活に関する様々な窓口としての役割を担った。

### (1) 健康診断

学生・教職員を対象として法令に基づく定期健康診断を実施した。また、健診実施に関する問題点を明確にし、新規健診業者との綿密な協議に努めたことにより、実施・事後措置の充実が図った。

また、業者変更に伴い費用削減するも、受診票のOCR化やこれまで保健室作業でなされていた結果通知の作成、健診データ加工等を業者委託可能となるよう学内・外で協議を重ね、事務処理の大幅な削減に成功した。さらに近年、再三の再検査の呼び出しに応じない学生の増加に伴い、担任・実習課と協働した結果、再検査期限内での再検査実施率が向上し、実習準備業務の効率化に繋げることができた。



(2) 外傷・疾病への対応

学生・教職員の外傷、疾病に対する応急処置を実施した。

また、学生・教職員の疾病や外傷に関する健康相談を実施し、必要に応じて管理職・教職員・医療機関等との連携を図った（利用状況は次頁表参照）。

(3) その他

健康教育の積極的取組みとして、例年通り東大阪市西保健センターと協働し学内喫煙活動を実施した。また、労働者のストレスチェック制度の施行に伴い、ストレスチェック制度に関する業務全般を調整し、学生・教職員の健康の保持・増進に取り組んだ。

さらに、安全衛生管理者を中心に労働安全衛生委員会にて協議し、教職員のメンタルサポート体制の充実に努めた。

保健室利用状況 (平成29年3月10日現在)														
(1) 短期大学部														
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1年次	内科系	2	2	4	7	0	0	1	1	4	4	0	0	25
	外科系	0	4	5	1	0	0	1	0	1	0	1	0	13
	健康相談・他	19	14	4	3	2	5	1	3	0	10	9	1	71
2年次	内科系	2	2	0	1	0	0	0	1	2	3	0	0	11
	外科系	1	4	2	1	0	0	5	1	0	0	0	0	14
	健康相談・他	18	21	15	4	0	0	6	0	2	0	0	0	66
計		42	47	30	17	2	5	14	6	9	17	10	1	200
（※昨年度数）		(50)	(38)	(90)	(23)	0	(4)	(15)	(8)	(22)	(24)	0	0	
他：皮膚・歯・口腔・眼・耳鼻・他														
(2) 大学														
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1年次	内科系	5	3	3	8	0	0	3	3	2	13	2	0	42
	外科系	1	3	7	2	0	2	4	3	3	3	0	0	28
	健康相談・他	10	30	23	9	1	0	14	16	9	11	1	0	124
2年次	内科系	3	3	3	2	1	0	11	0	8	2	1	0	34
	外科系	5	2	3	2	1	1	3	2	0	2	0	0	21
	健康相談・他	19	37	1	7	0	0	3	2	8	17	0	0	94
3年次	内科系	1	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	4
	外科系	0	0	0	0	0	0	3	1	1	0	1	0	6
	健康相談・他	41	0	2	2	0	2	1	2	12	5	0	0	67
4年次	内科系	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	6
	外科系	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
	健康相談・他	14	19	20	2	2	0	2	4	1	2	0	0	66
計		100	100	63	35	5	5	44	35	44	56	7	0	494
（※昨年度数）		(85)	(65)	(58)	(36)	(1)	(1)	(25)	(33)	(56)	(14)	(4)	0	
他：皮膚・歯・口腔・眼・耳鼻・他														
短大・大学／合計														
計		142	147	93	52	7	10	58	41	53	73	17	1	694
（※昨年度数）		(135)	(103)	(148)	(59)	(1)	(5)	(40)	(41)	(78)	(38)	(4)	0	
他：附属校・来学者等														
(3) 教職員・他														
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数		6	4	4	4	2	6	6	1	5	0	10	4	52
他：附属校・来学者等														



## 2. 学生相談室

学生相談室では、学生・保護者・教職員のカウンセリング、コーディネーション、コンサルテーション、学生支援に関する相談業務に努めている。

### (1) 学生相談

学生相談室が利用しやすい空間になることを目指し、ポスター掲示、心理テストの案内等を行い、来室を促した（利用状況は下表参照）。

学生相談室来談状況 (平成29年3月10日現在)														
<b>(1) 月別来談者数</b>														
短期大学部	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
1年	34	35	68	62	12	33	52	43	39	33	14	1	426	
2年	3	0	0	3	0	0	0	7	2	0	0	0	15	
計	37	35	68	65	12	33	52	50	41	33	14	0	441	
大学	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
1年	1	3	0	0	0	0	1	1	0	6	0	0	12	
2年	2	1	0	0	0	0	1	0	6	0	0	0	10	
3年	0	0	0	0	0	0	4	3	3	0	0	0	10	
4年	6	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	8	
計	9	4	0	0	0	0	8	4	9	6	0	0	40	
<b>&lt;その他&gt;</b>														
メール・電話	24	6	4	10	0	0	10	10	4	5	6	0	79	
履修生・保護者等	0	2	1	2	1	2	0	0	1	0	1	0	10	
その他	3	16	14	7	1	5	14	10	3	0	1	0	74	
計	27	24	19	19	2	7	24	20	8	5	8	0	163	
その他；ケース会議等														
総合計	73	63	87	84	14	40	84	74	58	44	22	0	644	
ティーアワー；4月：32名、5月：20名、6月：49名、7月：37名、 8月：5名、9月：18名、10月：29名、11月：27名、12月：22名、1月：26名、 2月：5名 3月：開催なし														
延べ面接回数 1回／月別 実人数 49名／年間 (学生のみ、メールは除く)														
<b>(2) 内容別相談者数／月別</b>														
内容項目	修学	進路	就職	クラブ	適応	性格	対人	恋愛	家庭	テスト	アルバイト	宗教	心理テスト	その他
来談者数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
(内容複数ある場合、複数カウントしてあります)														



## (2) 啓発活動

入学式・新入生へのオリエンテーション等で、学生相談室の案内・活用に向けた説明をする時間を設け、カウンセリング希望の新入生に心理的な抵抗を少なくするように働きかけ、学生相談室へいざなう活動に取り組んだ。

大学祭では、「コラージュで遊ぼう」を企画し、地域の親子連れや卒業生など合計 182 名の参加があり、高評を得た。

## (3) ティーアワー

昼休みに学生相談室を開放し、学生相談室の利用が広がる活動に取り組んだ。ティーアワーへの参加者は、顔見知りだけでなく、学部・学科を超えた交流ができ、初対面の学生と歓談する様子もうかがえた。

## (4) その他

職場のメンタルヘルス対策が急務となっている社会的現状を踏まえ、担任等、教職員個人に集中しがちな学生援助の負担を、各部署と連携し分担することで軽減を図るよう努めた。

## [10] こども研究センター

### 1. 「こども広場」(月曜日～金曜日：予約制 定員親子 20 組 25 名)

地域の親子が利用し、楽しみながら子育ての方法を学ぶ為のメニューを提供した。手作りおやつやパン作り、手作りおもちゃ等の製作、ふれあい遊び、身体測定、絵本の読み聞かせなどを各月ごとに工夫した。参加する親子間の地域連帯や、異世代の交流づくりも多くみられ、また、自主研修や授業の場として、学生の実践研究も行われた。

#### ① 手作りおやつ

月	内容	組数	こども数
4月	よもぎ団子	58	78
5月	豆腐&きなこバナナケーキ	62	75
6月	梅ジャム	79	101
9月	手作りおはぎ	65	80
10月	さつまいもの蒸しパン	89	112
11月	お好み焼き	98	124
12月	炊飯器deケーキ	69	92
1月	大根の味噌汁	94	120
2月	マカロニのきなこまぶし	79	93
3月	手作りおはぎおはぎ	105	144
	合計	798	1019





② 製作

月	内容	組数	こども数
5月	押し花でランチョンマット作り	51	113
6月	スライムで遊ぼう	56	74
7月	手形・足型で思い出作り	68	84
9月	廃材で楽器作り	59	77
10月	秋の実りで飾り作り	72	88
11月	秋の実りでリースを作り	76	97
12月	プラバンで遊ぼう	68	85
1月	牛乳パックでリリアン編み物	67	128
2月	雛飾り作り	80	102
3月	カラフル染め紙遊び	104	131
	合計	701	979



③品川先生による歯科相談



月	内容	組数	こども数
1月	歯磨き指導と相談対応	22	28
2月	親子の口腔内検査	17	19
3月	親子の口腔内検査	20	24

2. 「親子で遊ぼう」土曜日・日曜日（月1回）

土・日曜日の開催により、父親や兄弟が参加しやすかったようで、家族そろっての参加が多かったです。また、以前にこども広場を利用された小学生の親子なども参加された。

月	内容	組数	こども数
4月	「等身大こいのぼり作り」	27	33
5月	「家族で遊ぼう！」	31	32
6月	「赤ちゃん体操・茶話会」	20	19
8月	「家族みんなであそぼう」	22	20
8月	「親子でパン作り」	34	37
9月	「大学祭 保育室で自由遊び」	33	42
10月	「えほんフェスティバル」	29	42
11月	「しめ縄作り」	39	50
12月	「プラバンで遊ぼう」	23	29
1月	「参加者交流会」	47	66
	合計	305	370





### 3. 「こども応援ひろば」

#### ①こども応援ひろば 2016 パート I

学生（CS4『子育て演習』）の授業受講者との共催で実施した。

内容は「紙飛行機とぼし大会」や「手作りおもちゃ」など、学生もスタッフの一員として、子どもと接し保護者からも「親しみやすい雰囲気によかった」との感想をいただきました。



月	内容	組数	こども数
7月	こども応援ひろばパート I	231	205

#### ②こども応援ひろば 2016 パート II

「音楽を楽しむ会～近畿大学吹奏楽部による演奏会～」

昨年の「音楽を聴く会」に引き続き、親子がゆっくり音楽を楽しみ参加できる演奏会を開催した。満席となり、楽器紹介や子どもの”指揮者体験”など好評をいただき、来年度の開催の要望も多くいただきました。

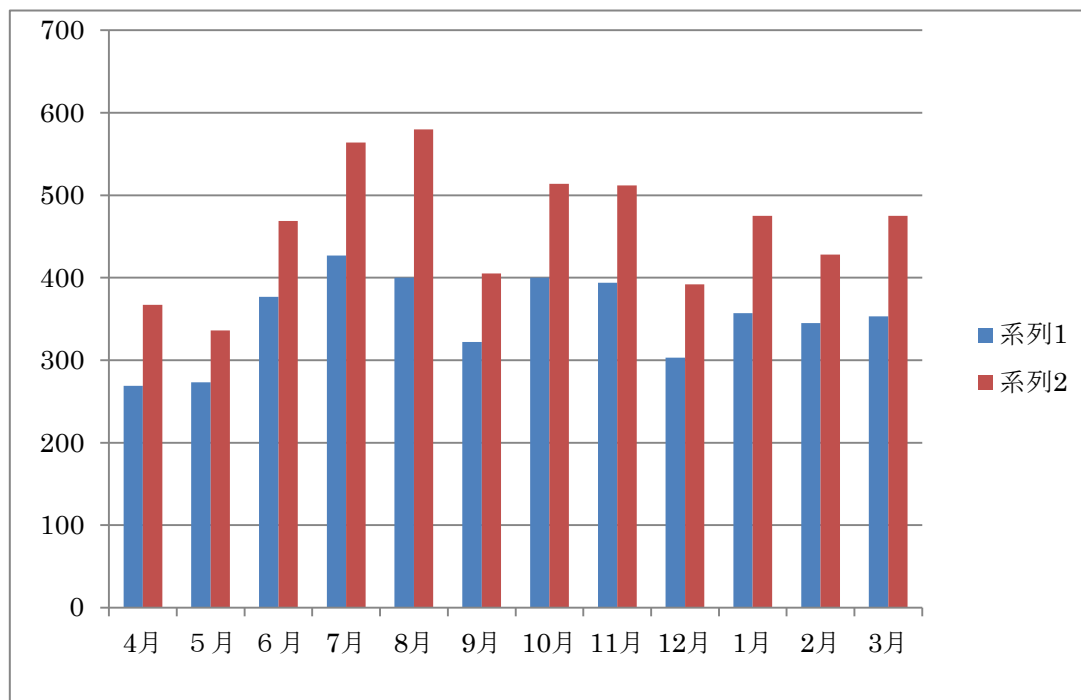


月	内容	組数	こども数
2月	こども応援ひろばパート II	119	114

### 4. 利用者数のまとめ

平成28年度 こども研究センターこども広場利用者数一覧表

	組	名	開設日数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	小学生以上	1日平均人数
4月	269	367	17	40	66	162	37	30	20	2	10	22
5月	273	336	18	49	84	122	50	12				19
6月	377	469	21	96	105	168	52	13	16	5	4	22
7月	427	564	19	74	142	120	100	61	29	15	20	30
8月	400	580	18	58	121	118	89	64	64	28	37	32
9月	322	405	19	44	117	118	86	12	16	7	4	21
10月	400	514	20	75	116	163	107	11	22	12	8	26
11月	394	512	19	58	116	175	115	15	23	8	2	27
12月	303	392	17	34	88	125	96	14	20	7	11	23
1月	357	475	18	48	102	148	108	32	27	9	9	26
2月	345	428	18	62	82	147	121	5	5	1	1	24
3月	353	475	16	80	71	141	115	43	15	6	4	30
計	4220	5517	220	718	1210	1707	1076	312	257	100	110	25



## [11] FD・SD・IR研究会

### 1. 授業評価アンケートの実施

大学及び短期大学部の全科目を対象として、前期後期各学期末に UNIVERSAL PASSPORT を用いたオンラインの授業評価アンケートを本学学生に実施した。

アンケート項目は、学生の姿勢、授業内容、授業の手法、教員の姿勢、授業の環境についての15項目と自由記述です。回答者の80%以上が、「授業に積極的に取り組んだ」と感じ、授業内容を理解し、授業内容に興味をもち、授業のレベルが適切であり、「教員の説明がわかりやすい」と感じ、「教材などが有効に活用されていた」と思い、「出欠の確認も適切であった」と回答した。教員の姿勢や授業の環境についても、ほとんどの科目で満足していた。これらのことから授業全体の満足度も高く、教員の授業の環境づくりや授業をわかりやすくしようとする工夫が見受けられる結果となった。

自由記述については、「私語が多かったので座席を指定し、授業に集中できる環境をつくってくれた」といった記述がみられた。一方、昨年度問題点として浮かびあがったハラスメントに対しては、全体の傾向ではなく特定の教員に対してのみ見受けられた。

### 2. 教員相互の授業参観の実施

教員が授業の質を高めることのできるよう、大学・短期大学部それぞれ1週間の期間を設け、教員相互の授業参観を実施した。

参観後のアンケートでは、他の教員の授業を見ることで新たな発見があったというものが多くみられた。代表的な回答は以下の通りです。



- ・自身の授業の参考になったというもの
  - 「学生個人個人に細やかに指導していたのが参考になった」
  - 「まず教員が話すのではなく学生に考えさせていた方法が参考になった」
  - 「教員が学生に話しかけるように質問し、学生の回答から話を広げて感心した。学生とコミュニケーションをとりながら授業を進めていた」
  - 「ワークショップ、ロールプレイ、劇などの実践を取り入れていたのがよかった、こんな実践もあるのだと参考になった」
  - 「15回のプリントが先に準備され冊子になっていてなおかつ毎回提出してけるので忘れがなく、こんな方法があるのかと驚いた」
  - 「理解度のチェックの方法が参考になった」
  - 「自分の授業が普通と思っていたら他の教員に指導力があってびっくりした」
- ・問題点の指摘
  - 「学級崩壊状態（ほぼ全員睡眠、私語、立ち歩き）で話にならない」
  - 「授業中に机に座る学生がいる、一部の学生が話を聞いていない」
  - 「授業冒頭で起立と挨拶させるべき」
  - 「大学生に起立と挨拶させていて驚いた」
  - 「突然教員が大声をだし、学生が指示を聞き取れていない」
  - 「話すスピードに学生がついていけない」

回答をまとめると、学生の理解度を確認しながら細やかに授業をすすめていく本学のよい点と、学級崩壊に代表されるような課題が見受けられる結果となった。

### 3. FD・SD研修会

授業評価アンケートからハラスメントの問題が浮かび上がったことから、2017年2月24日に立命館大学大学院先端総合学術研究科特別招聘教授の上野千鶴子先生を招き、「大学のセクハラ対策 なぜ必要か？」について講演して頂きた。

講演では他大学でのハラスメントに対する取り組み、大学の組織を具体的な事例とともにご紹介を頂きた。その内容は、

- ① ハラスメント相談窓口には、業務委託という形式で専門家に頼むという方法がある。
- ② カウンセリングを行う専門家は、一般的には臨床心理士などハラスメントの相談経験を有する者を置く。



立命館大学大学院先端総合学術研究科  
特別招聘教授の上野千鶴子先生





③ ハラスメント委員会のメンバーは教職員で組織化され、訴えてきた者と訴えられた者のどちらに対してもリスニングを実施し、調査をし、解雇等の懲罰の決定もする。その際、被害者への二次被害に最大の配慮を行うことや、決定を下すまでの期間は3ヶ月以内で行うことが重要である。の3点に集約されます。

本学では今年度より学生意見箱を設置した。

## [12] 総務部

### 1. 補助金の確保

教職員に対する経常費補助金（一般補助・特別補助）申請要件の情報の発信として、一般補助に関しては、現在短期大学部実践食物学科が学生数の関係で補助金交付対象となっていないため、全教職員に改めて通知することによって入学者の確保を促した。

結果としては、実践食物学科に栄養士コースと製菓衛生師コースを新たに開設することにより、平成29年度入試において入学者は交付対象としての数を満たしたが、広報活動の遅れなどもあり、収容定員充足率においてわずかに届かなかった。

次年度において、この反省も踏まえさらなる補助金獲得の意識づけと協力体制づくりを目指す。

特別補助に関しては、補助対象項目となる内容を各学科・部署に通知し、補助金獲得を促したが、大学としての体制、組織上の未整備もあり、獲得に至らなかった。そのため、次年度においては、特別補助金獲得のためのプロジェクトを立ち上げ、補助金獲得を目指す。

また、補助金申請根拠資料の要件確認が厳しくなるなか、総務部が中心となって様々な要件に即した規程を整備した。窓口を総務課として教職員への周知を図り、協定書の整備及び根拠資料保管等を行った。

### 2. 予算の適正管理

予算執行時は、「購入等伝票」「出張届」「起案」等を事前に提出のうえ、決裁を得ることとなっており、総務部4人のチェック体制をとり適正に管理している。

### 3. 水道光熱費の削減

昨年度より継続して学内のLED化を図っているところですが、平成28年度においては、8号館全体の空調設備を入れ替えたことにより、未整備である教室等のLED化は次年度へ繰り越すことになった。



#### 4. 公的研究費の管理

昨年度より整備されている「個人研究費使用の手引き」「科学研究費助成金（学術助成基金助成金／科学研究費補助金）使用の手引き」を見直すとともに、平成28年8月31日、9月26日の両日を利用して「公的研究費におけるコンプライアンス教育研修会」を実施した。



コンプライアンス教育研修会

### [12] 桃風寮

#### 1. 新寮生歓迎会 [平成28年5月27日（金）]

新入寮生を在寮生が迎える行事である。大学生、高校生両者が力を合わせて企画し、新たに入寮してくる高校生、留学生や大学生、短大生たちを迎えて、歓迎会が開かれた。

#### 2. 防災訓練

[平成28年11月5日（土）]

年行われている寮の防災訓練ですが、避難訓練については、寮生にはなかなか緊張感が伝わらないのも事実であり行事としてより、経験を積む意味での本訓練の必要性や大切さを、繰り返し伝えていきたい。（右要項参照）

平成28年度

防災避難訓練実施について

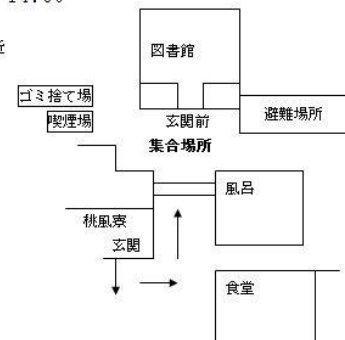
平成28年10月17日  
東大阪大学 桃風寮

1、実施日 平成28年11月5日（土）  
13:00～14:00

2、出火場所 桃風寮4階炊事場付近

3、避難場所 図書館棟の玄関前

4、訓練内容  
① 通報訓練（寮監）  
② 避難訓練（寮生）  
③ 初期消火訓練  
④ 防災講話



<ねらい>

- ・ 自衛消防隊組織の動きと、それぞれの立場における個人の役割の確認
- ・ 避難経路の確認と避難場所の確認
- ・ 防災意識の高揚をめざし初期消火の体験実習
- ・ 消防設備機器の機能と設置場所の確認

5、訓練講評および諸注意

6、指導者へのお礼と終わりのことば

※東大阪市西消防署より訓練用 watersprayer を借用し、消防署の指導と株式会社オパックの協力の下に使用方法を実施する。

※詳細は別紙「防災避難訓練スケジュール表」による。



### 3. 退寮生送別会 [平成29年2月23日(木)]

今年度も退寮する寮生たち送る会を開催したが、大学生、短大生ともに学外実習などとなったため、留学生、高校生中心の送別会となった。

### 4. 年間行事(平成28年度)

平成28年度桃風寮年間行事		
4月	・入学式(2日)	保護者入寮説明会及び寮生生活指導・各種申請
5月	・寮会議(10日)	大学先生3名・高校先生2名・3名寮監・通訳1名 参加
	・新寮生歓迎会(27日)	
6月		
7月		
8月	・夏休み	バルサン散布・寮監夏季休暇(8/13/14/15)
9月		
10月	・寮生新役員推薦決定	寮会議実施
11月	・防災訓練(5日)	寮生合同76名(大学・高校先生・職員参加) 東大阪西消防署
12月		寮監冬季休暇
1月		大学・短大(名参加)・来年度予算請求
2月	・退寮生送別会(23日)	
	・高校生卒業式(25日)	退寮準備・引っ越し・新入寮生決定
3月	・学位記授式(22日)	受け入れ準備



**東大阪大学・東大阪大学短期大学部**

〒577-8567 東大阪市西堤学園町 3-1-1

TEL. (06) 6782-2824 FAX (06) 6782-2896